

おはなしだより 2月

<年長>

わがままくまさん

作 : ねじめ 正一
絵 : 高畠 那生
出版社 : そうえん社

秋がふかまり、森の動物たちは冬にむけて準備をはじめました。森のなかまは、冬ごもりをしないくまさんに冬ごもりをさせようとちえを出しあいますが……



とら猫とおしょうさん

絵 : かないだえつこ
再話 : おざわ としお
出版社 : くもん出版

ある貧乏寺の和尚さんは、とら毛の猫を「とら」と呼び、かわいがっていました。ところが、とらは夜中になると必ずいなくなるので、不思議に思った和尚さんは、ある晩、こっそりあとをつけました。すると、こわれかけた古寺でたくさんの猫と歌ったり、踊ったりと酒盛りをしていました。それを見ていた和尚さん。うっかりくしゃみをしてしまうと……あっという間に猫たちは逃げてしまいました。翌朝、とらは今まで大事にしてくれたお礼をいい、「二、

三年すると、隣村でお葬式があります。その途中で、私が棺おけを空へ巻き上げますから、このお経を唱えてください。そしたら、棺おけをおろしましょう」と不思議な予言をし、どこかへ行ってしまいます。そして、二、三年が経ち、とらの予言どおり、隣村で葬式が行われることになりました……。

<年中>

ずいとんさん

再話 : 日野 十成
絵 : 斎藤 隆夫
出版社 : 福音館書店

ある山寺で、和尚さんから留守番を頼まれた、ずいとんという小僧さん。お経をあげていると、どこからともなく「ずーいとん、ずーいとん」と呼ぶ声がある。その声の主は……



たのしいひっこし

作 : 岡田 よしたか
出版社 : 小学館

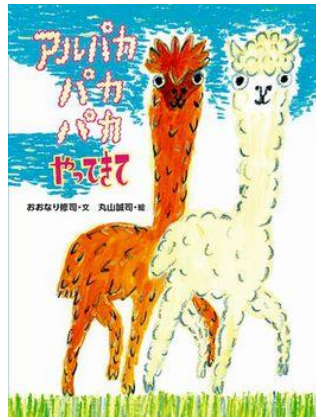
新しい町へ引っ越してきたぼく。どんな町かなと散歩に出かけます。犬小屋の横にネコ小屋があったり、シマウマに憧れているシロウマに頼まれごとをしたり…。ぼくは次々にあらわれる思いもよらぬ住人達と友だちになっていきます。関西弁のリズムで楽しく綴られる、ツッコミどころ満載の展開に、思わずクスクス。

<年少>

アルパカパカパカ やってきて

文 : おおなり 修司
絵 : 丸山 誠司
出版社 : 絵本館

トントンとリズムカル。
「え～、こうきたか！」と、おどろく心地よさ。
「どうなる、どうなる」と、ページをめくるのも、もどかしいほど。まさに「無条件におもしろい」絵本。
これは、もうお腹の底から笑うしかないでしょう。
それにしても、このシュールな展開、だれが予測できるでしょうか…。



かせひきコロワン

作 : 間所 ひさこ
絵 : 黒井 健
出版社 : ひさかたチャイルド

ハークション！風邪をひいてしまったころわん。
お医者さんに初めて注射をされますが…。大丈夫かな？